

「お前は、何をしているのかな」とすると馬祖が「坐禅をしており、師匠は続いて質問をします。」

「坐禅に親しむ」の会員七名、東龍寺で坐禅二炷、中食(昼食)。

三月二十一日、NHK文化センター

四月十九日、「第三十三回卯辰会」の集い。参禅。十九名。

五月十八日、「なんかんたんけん隊」坐禅体験三十九名。

五月二十日、新潟経営大学参禅、十一名。

六月九日、北信越ブロック商工会議所青年部連合会一行二十名。

七月二十一日、くみあい企画、坐禅。十八名。

十月二十七日、教区護持会坐禅研修会。十二ヶ寺、各三名(寺院一名+役員二名)、総勢三十六名。

十一月二十三日、NHK文化センター「坐禅に親しむ」の会員五名、東龍寺で坐禅二炷、中食(昼食)。

一月二十七日、NSG葬祭スクール坐禅。十二名。



参禅者とともに、愛宕山より、永平寺を望む 10月9日

「自らを磨く」

東龍寺住職 渡 辺 宣 昭

一昨年の十一月に、永平寺の布教部部长に就任して、一年半近くが経ちました。

この間、三泊四日の参禅研修に、最も力を入れて取り組んでまいりました。

参加者の動機では、「今までの自分を見つめ直し、新たなスタートがきりたい」とか、「至らぬ自分を変えたい」というのが一番多かったように思いますが、禅の教えは少し異なります。

昔、中国に馬祖(七〇九年生まれ)七八〇年没)という名の素晴らしいお坊さんが居ました。若い頃、一生懸命に坐禅をしていてと師匠がその場に現われて質問をします。

「お前は、何をしているのかな」とすると馬祖が「坐禅をしており、師匠は続いて質問をします。」

龍 声

東龍寺報

平成元年三月廿五日創刊

発行編集所 〒959-1502 新潟県南蒲原郡田上町曹洞宗 東龍寺

電話 (0256) 57-3395

FAX (0256) 57-2174

ホームページ <http://www.ginzado.ne.jp/~ryusei/>

E-mail ryusei@ginzado.ne.jp

「坐禅をして一体何になりたいのかな。」

すると馬祖は「仏になりとうございませぬ。仏の心を知りとうございませぬ。と答えました。すると師匠は何を思われたのか、建物の外にポンと飛び降りて、庭に座り込み、二つの瓦のかけらを取り上げてゴシゴシと擦り始めました。

不思議に思っ、馬祖は質問をします。「師匠様、一体何をされているのですか」

「瓦を磨いているのだ」と師匠は答えます。

「瓦を磨いてなんぞされますか」と、さらに問います。

「瓦を磨いてな、鏡にしようと思っておる」。

その答えを聞いて馬祖は少々腹を立て「瓦をいくら磨いたって鏡にはなりませんよ」と師匠にいますと、「じゃあ、いくら坐禅したって仏にはなりませんぞ」と答えたと言われています。

「自分がどうにもならない人間である。だからこそ、修行して自分を磨いて磨いて磨き上げて仏になる。これが修行の世界の有り様かと思いがちだが、これは大間違いだ」と師匠は指摘したわけだ。

道元禅師は「瓦を磨いてそのまま立派な瓦にすることが、瓦が瓦でありながら鏡になることである」とお示しです。

瓦を磨いてその結果がどうなるというより、磨くという行為こそを重んじられたのです。修行をしてその結果として悟りを得るという目的を持つての坐禅ではなく、ただ、坐るといふ行為そのものが大切なのです。

私にとって、参禅者の皆さんが自らを磨き、自らの素晴らしさに気づいてくれることが大きな喜びです。



東龍寺檀家/坂口與三郎家一行、永平寺参拜の折 11月9日

「坐禅をして一体何になりたいのかな。」

すると馬祖は「仏になりとうございませぬ。仏の心を知りとうございませぬ。と答えました。すると師匠は何を思われたのか、建物の外にポンと飛び降りて、庭に座り込み、二つの瓦のかけらを取り上げてゴシゴシと擦り始めました。

不思議に思っ、馬祖は質問をします。「師匠様、一体何をされているのですか」

「瓦を磨いているのだ」と師匠は答えます。

「瓦を磨いてなんぞされますか」と、さらに問います。

「瓦を磨いてな、鏡にしようと思っておる」。

その答えを聞いて馬祖は少々腹を立て「瓦をいくら磨いたって鏡にはなりませんよ」と師匠にいますと、「じゃあ、いくら坐禅したって仏にはなりませんぞ」と答えたと言われています。

「自分がどうにもならない人間である。だからこそ、修行して自分を磨いて磨いて磨き上げて仏になる。これが修行の世界の有り様かと思いがちだが、これは大間違いだ」と師匠は指摘したわけだ。

道元禅師は「瓦を磨いてそのまま立派な瓦にすることが、瓦が瓦でありながら鏡になることである」とお示しです。

瓦を磨いてその結果がどうなるというより、磨くという行為こそを重んじられたのです。修行をしてその結果として悟りを得るという目的を持つての坐禅ではなく、ただ、坐るといふ行為そのものが大切なのです。

私にとって、参禅者の皆さんが自らを磨き、自らの素晴らしさに気づいてくれることが大きな喜びです。

合 掌

【平成二十六年度事業、行持案内】

一、五月十九日(月)、二十一日(水)、田上本山講では、大本山永平寺参拝と京都・おこと温泉の旅を行う。特に、東龍寺の先代住職の永平寺承陽坐禅。十二名。

【参禅の報告】

一、三月二十一日、NHK文化センター「坐禅に親しむ」の会員七名、東龍寺で坐禅二炷、中食(昼食)。

三月二十一日

四月十九日、「第三十三回卯辰会」の集い。参禅。十九名。

五月十八日、「なんかんたんけん隊」坐禅体験三十九名。

五月二十日、新潟経営大学参禅、十一名。

六月九日、北信越ブロック商工会議所青年部連合会一行二十名。

七月二十一日、くみあい企画、坐禅。十八名。

十月二十七日、教区護持会坐禅研修会。十二ヶ寺、各三名(寺院一名+役員二名)、総勢三十六名。

十一月二十三日、NHK文化センター「坐禅に親しむ」の会員五名、東龍寺で坐禅二炷、中食(昼食)。

一月二十七日、NSG葬祭スクール坐禅。十二名。

【月例加茂法話会】

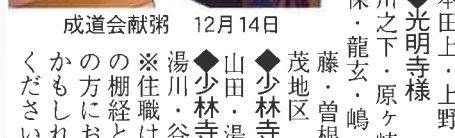
一、毎月一回、夜、加茂市上町コミュニティセンターの二階を貸り、僧侶六名(三名ずつ担当)による法話を聞く会を開催しています。お気軽にご参加下さい。

【月例坐禅会の御案内】

一、月例坐禅会を毎月第二土曜日夜七時半より行っています。お気軽にご参加ください。



皆勤の表彰 12月14日



成道会献粥 12月14日

【心癒し坐禅体験】

一、毎週水曜、木曜(祭日は除く)の午後四時から、約一時間、湯田上温泉宿泊者に坐禅修行体験をしていただいております。(十一月、三月、八月は休み)参加ください。

【梅花講のお知らせ】

一、梅花講では、毎月七日と、二十二日の二回練習をおこなっています。お始めになりたい方は、お気軽にご参加ください。

【お寺よりの御礼とお願い】

一、今年はお盆の棚経回りを下記の日程で行いますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

◆お盆前

新潟・亀田・三条・巻・燕・白根

◆十三日住職

新潟・中山・赤浜・笠巻・三ツ屋・三枚湯・市ノ瀬・覚路津

◆お盆中住職

本田上・上野・羽生田

◆光明寺様

川之下・原ヶ崎・下吉田・鎌倉・新保・龍玄・嶋・庄瀬・石田新田・後藤・曾根・横場・川船河・加茂地区

◆少林寺

山田・湯古屋

◆少林寺若様

湯川・谷・中店・山崎

※住職は、永平寺から戻つての棚経となりますので、代理の方にお願ひする場合があります。かもしれませんので、ご容赦ください。

曹洞宗 心の電話 ☎ 0120-508-740

こちらに電話をすると、全国の曹洞宗の方丈様達が一週間交代で、3分間の「ほとけの心」をわかりやすく説いた法話が流れます。24時間いつでも繋がりますので、是非、お聞きください。東龍寺住職も平成18年度より、年2回担当しております。本年度は、9月16日~22日、3月31日~4月6日です。

永平寺電話説法 ☎ 0776-63-3399

役寮が、十日ごとに代わって、3~5分の法話を行います。住職も担当しています。是非、お聞きください。

編集後記

寺報二十六号を発刊するに当たり、山縣洋典師、神田千早氏、今井哲朗・賀寸美ご夫妻、佐藤八重子氏、遠間トキ氏より、ご寄稿を賜り有難うございました。今後も皆様のご寄稿をお待ちしております。

一昨年十一月から、安龍寺様、光明寺様に檀務をお願いしながら永平寺の役寮を何とか務めております。

何かと不便をお掛け致しますが、ご理解と御協力をお願い申し上げます。

住職 合掌



記念写真 7月5日

【平成二十五年年度事業 行持報告】
 一、七月四日(木)～六日(土)に、駒澤大学教授角田泰隆師を講師にお招きし、第十二回眼蔵会を講本「即心是仏の巻」で、開催した。



飯台の様子 中日の気分転換のストレッチ



位牌堂への渡り廊下屋根工事 8月27日



『うたかたがり?心の道しるべを 歌と法話で』10月13日

一、八月二十四日、第三五回水子地藏第十四回聖観世音菩薩大祭を行った。青森県昭伝寺住職市川公淳師に、法話を戴いた。
 一、八月二十七日完成。本堂から位牌堂への渡り廊下屋根が雪・雨の為にいたみがひどく改修工事をした。



金毘羅大祭 7月22日

一、七月二十二日(月)午前十一時より、第二十四回金毘羅大祭を講員四十名の参加で行った。



位牌堂に向う階段に付けられた手すり 9月30日

一、檀信徒玄関の階段(八月二十五日)と位牌堂への階段(九月三十日)に手すりを付けた。



除夜祭、年頭大般若会

一、十二月三十一日～一月一日の二年参り大般若祈禱会を住職が永平寺で新年を迎えるため、光明寺様、安龍寺若様にお願ひして行った。



長柱寺様一行 11月15日

かたり?心の道しるべを歌と法話で」という演題で解りやすい法話と澄み切った歌声が心に響いた講演会だった。
 一、十一月十五日(金)、長野県長柱寺住職内藤英昭老師一行十四名、東龍寺に参拝頂いた。

一、七月二十二日(月)午前十一時より、第二十四回金毘羅大祭を講員四十名の参加で行った。

「ご縁に囲まれて」

山口県周南市 常寂光寺住職 山 縣 洋 典



永平寺を後にする際、迎えに来られたご家族と 2月16日

御寺の「眼蔵会」にご縁を賜り、早六年が過ぎた。この間を振り返ると、何と言っても五年前浅学非才の塊の様な私が大本山永平寺の布教部担当の一人として、上山する事となつたのは本当に吃驚した。
 更にその数年後、渡邊老師が会社で言う直接の上司として上山された事は、驚く以上に本当に奇異なご縁を賜つたものだと思ふ今日この頃である。実の処、この二月で暇乞いをお願いし、本山を降りたのだが、その間老師としては、不出来な部下を持ち、ひやひやの毎日だったに違いないと反省する事しきりである。

また東龍寺様で毎年、眼蔵会講師をお勤めの角田老師のお弟子さんも、その間修行に上がられ、共に精進する機会も賜つた。これまた、私の様なガサツで無神経男に、自分の大切な弟子を託さざるを得なくなった角田老師のご心情を察すると胸が未だに痛む。
 ところで、この永平寺を開かれた道元禪師様の残されていた言葉に、「霧の中を行けば覚えざるに衣しめる。良き人に近づけば覚えざるに良き人となるなり」と。がある。言葉だけを追うと、湿気のある場所に行くと、知らない間に衣服が湿る。同じように良い方の近くに居ると、懂れて無意識の内なるその方の言動を真似するようになる。そうすると、当人も良い人



第8回眼蔵会に初参加されて平成20年5月15日(筆者、左より2番目)

うに思えて仕方がない。
 今後、両老師におかれましては、どうかこの意を汲み取られ、五十を過ぎて未だに仏道の「ぶ」の字も説けない拙い私を見捨てずに、ご指導をお願い致す所存である。これから宜しくお願いいたします。
 住職より一言

平成二十年二月に永平寺で開かれた孝順会主催の布教講座で、初めてお会いしたとき、偶々東龍寺で行っている眼蔵会に関心を持ってくださいと、その年の眼蔵会に山口県から遠路参加してくれました。その後の眼蔵会には、本山で指導し、各師寮寺(師匠のお寺)へ戻った若い僧侶を連れてきてくださり、大変有難い御縁を結んでいただいております。
 一昨年暮れに私が、本山に上山してからは先輩役寮として色々教えてくださり、陰に陽に支えてくださいました。ご本人は謙遜された御寄稿をされましたが、力量もあり役寮からも修行僧からも慕われた方です。
 本山へも非常勤で務められますので、一層の御指導ご鞭撻を冀い、東龍寺眼蔵会への参加も心待ちにしております。

になる。と斟酌できるかも知れない。しかし、この言葉の意味は更に深い処に希求する事ができる。自分とご縁のある方を良いご縁(人間)、良くないご縁(人間)と分けているのは誰か。それは、言うまでもなくその人自身である。つまり一時期の印象や感情で、自分の都合で良し悪しを決めていないか。私は、道元禪師様は、ご縁はそのようなものではなく、全てが自分に齎された尊い関係なのだと言う示唆をされているよ

仏前結婚式

山田 今 井 哲 朗
賀寸美

平成二十五年三月二十三日、私たちは東龍寺様で仏前結婚式を挙げて頂きました。
結婚式には教会式、神前式、人前式もありますが、私たちが日常的に信仰しているのは仏様であるので仏前式というのは、その日限りのものではなく、日々先祖様や仏様にお線香をあげ手を合わせる事によって、式で頂くご加護や誓いが続いていくのだらうと思います。また何より先祖様への結婚の報告、そしてこれより先も見守って頂きたいという思いで迷わずご縁のある東龍寺様で仏前式をお願いしました。
式は大変ありがたいものでした。肅々と緊張した雰囲気の中にも方丈様の高尚で威厳のある温かさに包まれ、不思議と落ち着いて自身の結婚式を感じることができました。



本尊様へ婚儀の報告



三三九度盃事



誓いのことば



三歸礼文(さんきらいもん)

あれから早いもので一年近くが経ちますが、式を挙げて頂いて間もなく幸いにも私たちには第一子となる子を授かり、その後の経過も順調でいよいよ産み月を迎えるところです。これまで両親はもちろん親類縁者の方々の助けを頂きながら、まだまだ未熟な私たちは生活を紡いでいくことができました。
これからも日々のおつとめを忘れず、感謝の気持ちを持って家族支え合いながら歩んでいこうと思います。
〜 住職より一言〜
東龍寺で、仏前結婚式をお願いしたいというご依頼を受けて、久しぶりに務めさせて頂きました。
若いお二人やそれを見守る御両家親族の嬉しそうな様子に接するのは良いものですね。
二月末には待望の第一子が誕生されたそうですが、末永い御多幸を東龍寺本尊様と共に願っております。

眼蔵会と授戒会と

広蔵寺寺族 神 田 千 早

昨年五月に修行されました当寺授戒会には、東龍寺様にも御随喜賜り、又、お母様はじめ八名の方々に御参加いただき本当に有難うございました。眼蔵会でも毎年共に学んでいるお仲間なのでとても嬉しく、心強い気持ちで五日間を勤め終えることができました。

私は以前に数度、永平寺の撰心に参加しましたが、当時の後堂老師は樋崎一光老師でした。拝聴した提唱の中に「緩歩」について話された時がありました。緩歩とは経行の歩みのことだけでなく、日々の生き方にも大切である、日常バタバタ暮らして経行だけ緩歩なのではいけない、普段から調身、調息が大事であるということだったと思います。それから数年後、東龍寺様に一光老師をお招きし緒子授与式(当時住職と母が参加)が行なわれた御縁もあり、私の緒子に一光老師より「緩歩」と揮毫していただきました。
なぜその言葉をお願いしたか、実は私の苦い経験があったからです。若い頃に茶道を習っていた時、先生の手伝いで、ある会



広蔵寺様と戒弟で参加した東龍寺檀信徒 5月30日 (筆者、後列中央)



説教

説教を勤めさせた東龍寺住職 5月30日

〜 住職より一言〜
眼蔵会も今年は第十三回。毎年参加できる巡り合おりに深く感謝しつつ、また参りたいと思います。よろしく願います。
合 掌
広蔵寺様とは、有難い縁を感じております。方丈様とは、昭和六十年に樋崎一光老師から、お袈裟を授与して戴く会が東龍寺を会場に催されてから、また、奥様とは、平成十三年から、始めた眼蔵会に皆勤で参加いただいているという御縁です。
そして、昨年、広蔵寺様では、五月二十七日、五月三十一日の五日間に渡って、永平寺副貫首の南澤老師を戒師に拝請し、大授戒会を厳修され、東龍寺からも住職の母をはじめ、八名が戒弟として参加をさせて頂きました。
今後とも、一層の御法愛を賜りたく存じます。

秋の講演会に参加して

本田上 佐 藤 八重子

色々な病気になる約二十年間、肉体的精神的につらい日々でした。

そんな私も四年前からお陰様で不思議に思う程の回復ぶりでした。体が不自由な為ライブ、公演、旅行等心を殺していた日々でしたが、あの日、うたがたり??音楽、法話??東龍寺様に!!胸わくわくで参加させていただきました。

講演の中で、幼い頃生き別れになったお父様の命日に、姉妹が戒名を探して欲しいと訪ねて来られ、一生懸命探したけれども見つからず、ご自身が新しい戒名をつけて授戒しようとしたところ、ちぎれた過去帳のなかに先代住職が十数年前につけた戒名がみつかった。ところが、なんとその戒名が、今回付けた戒名の六文字と全く一緒という摩訶不思議なめぐり合わせに、亡き父が間違いない姉妹を見守っていてくれたんだなど皆が感激したというお話がありました。



筆者ご夫妻

実は、我が家でも昭和の初めに京都で暮らしていた時、その後二十日の長男(夫の兄)が、病気の為に亡くなったそうです。父はよく、「夢にいつも赤ちゃんが、自分の手を引く張る姿が出てくる。それを東龍寺の住職(三代前の黙拳是笑方丈様)に申し上げました所、戒名も血脈も頂いていなかったことがわかり、正式に授戒をし戒名を頂き、お墓に埋めた。その後、全く夢に出

て来なくなった」と話していました。ご先祖様の供養の大切さを再認識させて頂きました。お二人の絶妙なトーク有り音楽有り、法話有りであつという間の二時間で、我に返ったら、目には涙、両手は合掌していました。

帰り際には奥様からは、「先祖様を思いがまんして頑張りましょう」と励ましのお言葉もいただき本当に最高の一日でした。ありがとうございます。参加させていただいた老婆でした。 合 掌

〓 住職より一言〓

佐藤さんは、大変信心の篤いお宅で、初代の佐藤栄八氏(筆者の義父)は、特にご投稿の中に出てきた生後二十日で亡くなった子供さんへのご供養を毎年三月十八日の祥月命日にかかさずして下さり、夢のお話も必ずされたものでした。私も、先代住職と全く同じ戒名をつけていたというお話を聞いた時には、栄八氏のお話が、真っ先に思い浮かびました。亡き人というのは遺族と目に見えない絆があるのだなあと改めて感じさせて頂き、先祖供養の大切さを痛感しました。

眼蔵会案内

第十三回眼蔵会を七月十日(木)〓十二日(土)に行います。

駒澤大学教授・角田泰隆先生より、「説心説性」の巻を

ご提唱いただきます。是非、ご参加ご修行ください。

松代・少林寺ご参拝と 芝峠温泉「雲海」の旅に参加して

曾根 遠 間 ト キ

十一月五日〓六日、一泊二日で松代・少林寺ご参拝と芝峠温泉「雲海」の旅に参加させて頂きました。お天気にめぐまれ車窓から色づき始めた山々を眺めながらの楽しい旅の始まりでした。四か所ものトンネルをくぐりぬけた十日町市は紅葉がすすんでおりました。

長徳寺の千手観音参拝や、坂口安吾記念館見学、松之山美人林を散策等いろいろ名所に寄り乍ら松代の少林寺さまに着いたのが四時頃でした。

少林寺さまの奥様(東龍寺方丈様の妹さま)がつかたてのお餅とおはぎを作って待っていて下さいました。郷土料理のいろいろなお漬物等、あたたかいおもてなしを受けながら奥様と地域の方々とのあたたかい交流の様子が見られるほのほのとした気持ちになりました。

帰りにはお土産まで頂戴致しましてありがとうございます。紙面をお借り致しまして厚くお礼申し上げます。

秋の夕暮は早くお宿に着いたのが五時頃だったでしょうか、あたりは暮れ始めておりました。和気あいあいで夕食をいただきながら宿の人の「明朝はお天気がよさそうなので雲海がみられるでしょう」というお話で、温泉で疲れを癒



松之山 美人林 11月5日 (筆者 左より、3人目)



芝峠温泉の雲海 11月6日

し床につきました。

六日朝六時頃目覚め窓から眼下を見下ろすと朝日に写し出されていた風景に思わず感嘆の声をあげました。山あいの木立の間から立ちこめる雲の海、秋の紅葉と濃い緑の間をぬって徐々に色濃くなってゆく雲海はまさに広大な「山水画」を観ているようでした。眺める階や場所によって異なる風景は感動でした。十時頃宿を後にし名所を寄り乍ら十日町市博物館へと向いました。

こちらは近隣から発掘されたという国宝の火焰型土器や重要文化財の土器等がたくさん陳列されておりました。

十日町市の議員の方々が東京オリンピックの聖火台にと陳情されたとのことで、先日下村文部科学大臣が視察にこられたとのこと、「もし聖火台に推されたならば素晴らしいことですので今この機会にこの眼でご覧になってみて下さい」という少林寺さまの奥様の御好意で十日町市博物館を見学させて頂きました。ありがとうございます。

十日町市の名利や名所等、寄り乍ら帰路につきました。

東龍寺様の御母様、方丈様、少林寺さまの奥様、旅行を企画された梅花講の皆様大変お世話さまになりました。

楽しい旅をありがとうございました。

〓 住職より一言〓

参加することが出来なかった私にも、旅行の様子や手に取るように伝わってくる紀行文を書いてくださいました。

遠間さんは、広厳寺様での授戒会にも戒弟として修行されました。

今後とも、東龍寺主催の行持に積極的に参加して下さることを期待しています。

合 掌